

# 脳ドパミン検査および頭部MRIの両方の検査を受けられた方へ

## 研究のご説明

脳ドパミン検査は黒質線条体ドパミン神経の存在を画像化することによりパーキンソン症状の診断に非常に有用な検査の一つであるといわれています。また頭部MRIは空間分解能の高い検査で脳の変性や萎縮の状態を評価する上で有用とされています。

今回、パーキンソン症状を優位症状とする多系統萎縮症をより正確に診断する上に、両方の検査を組み合わせた場合どの程度有用性が向上するかという後ろ向き研究(今までの画像のデータを解析する研究)を実施します。

### 【研究の概要】

研究題名：パーキンソン症状を優位とする多系統萎縮症(MSA-P)の診断における脳ドパミン検査と脳MRIの組み合わせ検討の有用性

研究期間：医学部倫理審査委員会承認後から 2018年 9月 30日

実施責任者: 高知大学医学部附属病院放射線科 村田和子

### 【対象となる方】

2013年 11月 18日から 2016年 3月 31日の間にすでに高知大学医学部附属病院で脳ドパミン検査と頭部MRIの両検査を受けられた方

### 【研究の意義】

脳ドパミン検査はパーキンソン症状の診断に非常に有用な検査ですが、疾患の鑑別を絞り込むことが難しい場合があります。MRIは変性疾患や萎縮の評価に非常に有用で、パーキンソン症状を優位とする多系統萎縮症(MSA-P)に特徴的な所見がありますが、その出現は非常に微細なものです。両方の検査を組み合わせることでMSA-Pの診断能が向上する可能性があります。

### 【研究の目的】

MSA-Pの診断能を向上させて、他のパーキンソン症状を呈する疾患と鑑別すること

### 【研究の方法】

これまでの検査でカルテに保存されているデータを収集、使用して行う研究です。本研究は、当院の倫理委員会の承認を得ております。この研究は、ヘルシンキ宣言および「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を遵守します。

【費用について】

新たにご負担いただくことはありません。

【予測される結果(利益・不利益)について】

該当する方の検査結果には全く影響を与えません。また、不利益を受けることもありません。さらに、この研究への参加をお断りになった場合にも、不利益をこうむることはありません。

【データの収集について】

本院で収集されたデータおよび個人情報は匿名化を行い、2021年4月30日まで厳重に保存し、その後ファイルを処分いたします。

【個人情報の保護について】

解析にあたっては、個人情報は匿名化し、その保護には十分配慮します。学会や論文などによる結果発表に際しては、個人の特定が可能な情報はすべて削除されます。

【データの二次利用について】

本試験で得られたデータについては、倫理委員会の審査を経て承認された場合に限り、個人識別情報とリンクしない形で二次利用することがあります。

【研究協力の任意性と撤回の自由について】

この研究に関して不明な点がある場合、あるいはデータの利用に同意されない場合には、2016年7月末までに以下にご連絡下さい。

【問い合わせ等の連絡先】

高知大学医学部附属病院放射線科 村田和子

〒783-8505

高知県南国市岡豊町小蓮

TEL:088-880-2367\_